

ひとイニタビジャー



セーフコミュニティとわだを実現させる会
会長 上野 雅さん(37才)

市は、安全・安心に暮らせるまちづくりを進め、平成21年7月に世界保健機関(WHO)の認証に向けて取り組んでいます。この安全・安心な地域づくりを、目指すためには、市民と行政が協働で取り組むことが必要です。自分たちの住むまちのために何かしたい!という思いで活動している「セーフコミュニティとわだ」を実現させる会」会長の上野さんにお話を伺いました。



「セーフコミュニティとわだを実現させる会」ロゴマーク

■会の発足のきっかけは?

わたしは、平成18年に市が主催した子どもの外傷予防の講演会に参加し、人と人が支え合うことで、このような外傷予防ができることに感銘を受けました。

その後、勉強会を重ねてきたかたとともに平成19年1月に会が発足しました。会員は約40人で、行政担当者や大学研究者、病院関係者、ケアマネージャー、作業療法士、薬剤師、農協関係者、建築士、民生委員、教師、市民などいろいろな立場のかたが加入しています。

■どんな活動をしていますか?

市が取り組んでいるセーフコミュニティへの提言や、毎月1回定例会を開催し、市民への普及啓発について話し合っています。

特に今年は、市が主催するセーフコミュニティの講演会で運営協力し



安全・安心なまちづくりに向けて、PR活動に力を入れています

ているほか、多くの市民がセーフコミュニティという言葉を目にするように、秋まつりで横断幕を掲げたり、公民館まつりで普及啓発のチラシを折り込んだティッシュを配布したりしてPRに努めています。

セーフコミュニティは横文字で分

かりにくいと思われるので、会員が親しみのあるロゴマークや「つくろうよ!セーフコミュニティ」という歌を作ってくれました。このように、会員が気軽にアイデアを出し合い、それぞれの技術や特技を生かせる楽しい会です。

■一人ひとりが安全・安心なまちづくりに向けて取り組むことは?

事故によるけがを予防するためには、まず家庭を振り返ることから始めたいと思います。例えば、家の中を見渡し、小さなお子さんがいる家庭は、ポットを子どもの手の届かないところに置いてやけど防止に努めるとか、高齢者がいる家庭は、日用品を高いところに置かないようにして転倒防止に努めるなど身近なことに目を向けることから始めます。

わたしたち一人ひとりが意識を高めていくことで、地域全体に広がり、安全・安心なまちづくりにつながっていきます。行政だけに頼るのではなく、より多くの市民が参画し、協働していくことが重要だと思います。今後は、会員を増やしながら、組織を強化し、「十和田市に住んでよかった」と思えるまちを目指してがんばります。



■会員を募集しています

セーフコミュニティの実現のためには、たくさんの方が参画することから始まります。あなたも一緒に活動してみませんか。

申し込み・問い合わせ先

市保健センター (☎25-1181)